



2012年6月 第10巻第6号

### かく語りき—聖人の言葉

「悟りを得ることが唯一のゴールだ。  
心に悟りを得れば、すべての議論は止  
み、神の叡智が輝き出す」  
(シュリー・ラーマクリシュナ)

「あなたがたの内におられる方は、世  
にいる者よりも強いのです」  
(イエス・キリスト)

### 今月の目次

- ・かく語りき—聖人の言葉
- ・今月の予定
- ・スワミー・ヴィヴェーカーナンダ  
生誕祝賀会
- ・「スワミー・ヴィヴェーカーナンダ、  
ラビンドラナート・タゴールと日本」  
スワミー・メーダサーナンダによる  
スピーチ
- ・忘れられない物語
- ・今月の思想

### 7月の予定

ハタ・ヨーガ・クラス

7月6日(土)、13日(土)、20日(土)  
11:00より

場所：逗子本館 \*体験レッスンもで  
きます。

お問い合わせ：逗子協会

### 逗子例会

7月15日(日) 10:30~16:30

逗子協会

「輪廻転生」スワミー・メーダサー  
ナンダジによる講話  
皆様のご参加をお待ちしています。

### 関西地区講話

7月21日(土) 13:30~17:00

場所：大阪研修センター

「バガヴァッド・ギーターとウパニシ  
ャッドを学ぶ」スワミー・メーダ  
サーナンダジによる講話

### 夏季戸外リトリート

7月27日(金)~29日(日)

場所：東京都青梅市御岳山  
宿坊「能保利」

「宗教と無宗教」スワミー・メーダ  
サーナンダジによる講話

特別講話「宗教歌についての実演と講話」 スティーヴ・モーガン教授  
お問い合わせ  
シャンティ (shanti.k@r3.dion.ne.jp)

## スワームー・ヴィヴェーカーナンダ 生誕祝賀会 2012年5月27日 東京・インド大使館

5月27日(日)、日本ヴェーダーンタ協会は在日インド大使館(東京)のご協力の下、毎年恒例のスワームー・ヴィヴェーカーナンダ生誕祝賀会を開催しました。

この祝賀会はインド大使館、協会および祝賀委員会の共催で、大使館の新築のオーディトリウムで開催するようになって3年になります。インドでは今年、ラビンドラナート・タゴールの生誕150周年記念祝賀行事が終了し、またスワームー・ヴィヴェーカーナンダの生誕150周年記念祝賀行事がこれから開始されるため、協会と大使館はこの祝賀会を、タゴールとスワームーの生涯や日本とのつながりについて伝えるための機会として位置づけました。こうして、アロック・プラサード駐日インド大使のご挨拶の言葉にもあったように、協会と大使館はこの祝賀会をきっかけとして「印日両国の国民の相互理解をより深め、人的交流を促進する」ことを願い、今回のプログラムを企画しました。

午後2時、祝賀会は、6名の日本人信者・友人が朗唱するサンスクリットの普遍の祈りで始まりました。



次に、ステージ上に置かれたスワームー・ヴィヴェーカーナンダの立ち姿の大きな御写真に花束が捧げられました。そして、スワームー・メーダサーナンダジが、インドのラーマクリシュナ・マト・アンド・ミッション ベルル・マトのプレジデントであるスワームー・アートマスターナンダジからのご挨拶の言葉を読み上げました。



続いて、インド大使館首席公使サンジヤイ・パンダ氏が、協会の定期刊行誌『不滅の言葉』特別号の発刊を披露され、来場者へ歓迎の挨拶を述べこの行事の重要性についてお話しになりました。

今回の祝賀会のメイン・スピーチは、スワミー・メーダサーナンダジによる「スワミー・ヴィヴェーカーナンダ、ラビンドラナート・タゴールと日本」でした。(本ニューズレターの4ページに、このスピーチの第1部が掲載されています。)



スピーチの後、マハーラージは質疑応答を行いました。そして、祝賀委員会書記のジャグモハン・チャンドラーニ氏が感謝の辞を述べ、休憩時間となりました。



30分間の休憩ではオーディトリウム前のホールで、チャンドラーニご夫妻のご厚意により、ご夫妻の経営される東京・西葛西のインド料理店「スパイスマジック カルカッタ」から無料の軽食が来場者に振る舞われました。



午後4時30分、来場者は再びオーディトリウム内に着席し文化プログラムが始まりました。文化プログラムには3つの演目がありましたが、プログラムの進行に遅れが出ないように、舞台・音響のスタッフはステージをいっぱいに使ってすべての演目で使用されるマイクなどをうまくセットしました。

最初のプログラムでは、インド人の若者4名がヴェーダをリズムに乗って美しく朗唱しました。続いて、日本人のグループが日本語の賛歌2曲を歌いました。この賛歌は、ヨーガスクールカイラス横浜校のヨーガ講師・松川慧照さん作の1曲と、協会の泉田香穂里さん(シャンティさん)作の1曲で、協会のメンバーとカイラスのメンバーの合計約30名による合唱は胸を打つ素晴らしい歌声でした。

そして最後に、インド人を中心とする総勢約20名によるタゴール音楽・ダンスとナレーションが披露されました。演奏者やナレーターがタゴールの創作した美しい曲や詩歌の数点を披露し、さらに伝統的なインド舞踊も行われま

した。

この生誕祝賀会では毎年、来場者全員に祝賀会のプログラムなどが配られます。今年も、祝賀会のプログラム、協会の出版物のカタログ、協会とその活動に関するパンフレット、祝賀会についてのアンケートが入った大きな封筒が来場者に手渡されました。

さらに今年は、松川さん作賛歌の歌詞カード（日本語・英語）と、スワーミーが来日した際の逸話や来日をきっかけにスワーミーと親交が生まれた人々についてまとめられた、147ページの『スワーミー・ヴィヴェーカーナンダと日本』という本も同封されました。



## スワミー・ヴィヴェーカーナンダ、 ラビンドラナート・タゴールと日本 スワミー・メーダサーナンダによる スピーチ

(全2部の第1部)



在日インド大使館サンジャイ・パンダ  
首席公使閣下 および  
親愛なる友人の皆様、

インドのラーマ・クリシュナ・ミッションの支部である私たちの協会は、1995年以來、東京でのスワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕記念日の公式の祝賀会を開催してきました。毎年、実行委員会を設けてテーマを決め、講演のためにあらゆる分野の方々を講演者としてお招きします。今年のテーマは、「スワミー・ヴィヴェーカーナンダ、ラビンドラナート・タゴールと日本」です。今年は、記念すべき重要な年であるため、このテーマが実行委員会により決定されました。なぜ重要かと申しますと、まず、今年は日印国交樹立60周年にあたり、また、タゴールの生誕150周年記念の祭典が終了し、来年からスワミー・ヴィヴェーカーナン

ダの生誕150周年記念が開始されるからです。この両者とも日本を訪れ、日本と関わり、近代の日本とインドの交流のパイオニアであることから、今年はこのテーマに決定されました。

これから私の見解をお話しいたしますが、皆様は私に同意する必要はなく、私は皆様にとって何か参考になるものを提供できたら大変うれしく思います。本日は、ヴィヴェーカーナンダとラビンドラナート・タゴールが日本に与えた影響と、日本の彼らに対する影響について考察したことをお話します。日本の彼らの影響については、特に彼らの日本訪問の感想を主題にして今わかる範囲でお話します。

### ヴィヴェーカーナンダの日本への影響

ヴィヴェーカーナンダの日本への影響について語るとき、タゴールの知名度の規模が格段に大きいことを忘れてはなりません。なぜなら、タゴールは詩人であり、彼の文化的・芸術的な魅力は、宗教と一体化したスワミーージよりも、一般社会でより受け入れられやすいものです。またタゴールが日本を1916年に訪問したとき、すでに彼はアジア人として最初にノーベル文学賞を受賞した有名人でした。一方、ヴィヴェーカーナンダは、1893年に日本に到着したときは、同じ年の数ヶ月後の9月には、世界宗教会議での有名なスピ

一冊でニュースとなりましたが、実質的には無名でした。このニュースは日本の新聞にも掲載され、私も実際にそのコピーを見たことがあります。ヴィヴェーカーナンダの日本再訪と演説の招待が、日本の最高地位にある明治天皇からも、きていましたが、もし彼が健康であったならばそれが実現したのか、またそうであっても日本の招待者や一般大衆にどのように受入れられたかは、推察する以外に仕方ありません。

スワームージーは、日本に無名の僧侶として訪問したときに、おそらく彼に接した人たちには何か印象を残したのではないかと思います。そしてこの推察は、インドの著名な実業家ジャムシェドジー・タタのコメントによって実証されています。彼は日本に滞在した後、横浜港からバンクーバーまでの長い航海をスワームージーと共にしたのです。タタが後年、シスター・ニヴェディタに話したことによると、スワームージーにあった日本人は彼を日本人が拝んでいるブッダにたとえていたそうです。

しかし、スワームージーの日本への本格的な影響がみられたのは、フランスのノーベル文学賞作家、ロマン・ロランによる優れたヴィヴェーカーナンダの伝記が 1931 年に邦訳されてからです。その後、1958 年と 1964 年のスワームー・ヴィヴェーカーナンダ生誕 100 周

年で、ラーマクリシュナ僧団の僧侶が来日講演を行い、特定の少数の人たちに限られてはいたものの、スワームージーへの関心が高まりました。これにより、大阪と東京に二つのヴェーダーンタ・グループが同時に発生しました。ヴィヴェーカーナンダの影響が本当に始まったのは、この二つのグループがスワームージーの本の出版を開始してからです。その後 1984 年に東京ヴェーダーンタ協会は、ラーマクリシュナ僧団の正式な組織となり、僧団本部から派遣された僧侶の指揮のもとに本格的な活動が開始され、ようやくスワームージーの最後の願い「日本のために何かをしたい」が実現されることとなりました。協会はこれまでラーマクリシュナ、ヴィヴェーカーナンダについて 32 冊の本を出版してきました。そのうち 7 冊がヴィヴェーカーナンダ関連ですが、なかには、常に需要があり、協会の書籍部やホームページだけでなく、丸善や紀伊國屋書店などの全国的に著名な書店でも販売されている本もあります。とはいえ、スワームージーについてはまだ多くの本の邦訳が待たれています。

逗子のヴェーダーンタ協会での恒例のスワームーの生誕祭や、1995 年から続いている本日のような東京での公式の祝典では、ヴィヴェーカーナンダについて講演が行われ、また大学や日本各地で、ヴェーダーンタ協会在住のスワームーが講話を行っています。スワ

ーミーの展示も、東京・代々木公園のナマステ・インディア、インド大使館の近代的な美しいギャラリー、大阪の大きな公会堂など数か所で開催されました。また協会からは、定期的にメルマガにて、ヴィヴェーカーナンダのような偉人からのインスピレーションに満ちたメッセージを発信しています。

さらに大勢の会員がいる日本ヨーガ療法学会のような団体がヴィヴェーカーナンダのヨーガ・シリーズ 4 巻を彼らのヨーガ研究に組み入れました。

このようなことで、ヴィヴェーカーナンダが身近に感じられるようになり、影響も大きくなりました。程度に格差はあるにせよ、今日、日本の社会の全分野で、多少なりともヴィヴェーカーナンダを知っている人は、数千人に及びます。ここで重要なことは、それがどんな影響を与えたか、ということです。

スワームジーのインドについてのメッセージは日本の皆様には参考にはならないと思いますが、精神性、人生設計、調和と普遍性などについては有益であり、世界中で高く評価されています。スワームジーについて読み、率直に彼の偉大さを称賛し、彼によっていかに励まされたかについて話す数多くの日本人に会いました。昨年ここで講演された上野理絵さんを思い出される

方もいるでしょう。彼女は、どのようにスワームジーが友となり、哲学者として仕事と主婦業を両立させる彼女を導き、やがて小さな会社の社長となるまでを話されました。これは、一人だけの例ではありません。

スワームジーのゆっくりとした、しかも着実な影響の広がりには、ふえつつある人々の宗教への無関心という現実にもかかわらず、二つの要因があります。ひとつは彼のメッセージには強大な力と魅力があることです。もうひとつは、このメッセージを伝えるための組織が存在することです。

## スワームジーに与えた日本の影響

さて、日本がスワームジーに与えた影響ですが、彼は、日本人の特性の多くの部分に感銘を受けました。この国について最も感動したのは、イギリス帝国主義の支配下にあったアジアの一国のインドとは違って、日本は時代遅れの眠りから目覚め、鎖国をやめ、近代化を推し進め、国家として新しく歩み始めていたことです。これがまさにスワームジーがインドで実現したかったことなのです。またスワームジーが感心したのは、西洋を模倣し、多くの思想や機関など西洋から持ち込みながらも、日本は伝統的な習慣を捨てずにその多くを残していたことです。これも彼は、インドが見習うべき理想、と感

じていました。

このことが理由で、初めての西洋訪問から帰国して、インドの復興を議論しながらも、彼は私的な会話や新聞などの取材で、アメリカやヨーロッパの例ではなく、アジアにある国家、日本を話題にしました。彼は、日本こそインドの復興のモデルだと考えていたのです。彼は、たびたび、インドの若者たちに日本や中国に行くように、特に日本行きを勧め、いかに偉大な国家に変えていったかを学べ、と助言していました。

スワーミーは鋭い観察眼と、深く歴史の知識を持っていたものの、彼の日本滞在はあまりにも短く、ほとんどが観光であり、近代化の全ての局面や、近代化が国家に及ぼした影響については、当時はあまり顕著でなかったこともあり、深く知ることができませんでした。

たとえば、急激に西洋を模範とした近代化を急いだため、国民の精神的生活が損なわれました。国家が国民の道徳と福祉のためにだけでなく、政治の中枢において軍部を強化するために神道を優遇したことで、何百年も共存していた神道と仏教の対立が生まれ、その結果、仏教が弱体化したからです。この過程で、鎖国の中世から、西洋のアジアへの帝国主義の攻撃に対抗でき

る強い近代国家をめざしていた日本は、まもなく近隣諸国への侵略を追求するようになり、植民地保有国となろうとしました。これは実に近代史における大きな皮肉のひとつです。

今述べた国家の発展は、スワーミーが訪問した 1897 年からタゴールの 1916 年の訪問の数年間の中に顕著となりました。

### タゴールが日本に与えた影響

タゴールはご存じのように、日本を訪問する前からノーベル文学賞を受賞した初めてのアジア人としてすでに有名でした。これは日本人に誇りと、アジアの国家としての意識を高めたいと願う国家に、誇り高い西洋諸国と対等である意識を与えました。タゴールの来日前には、彼の作品及び関連書が少なくとも 7 冊が出版されていました。本の出版そのものが、知識人のタゴールへの関心の高さの現れであり、また出版により、一般人にタゴールが知られるようになりました。

故に、タゴールの来日は歓迎され、著名な詩人、ノーベル文学賞受賞者として彼は、日本のあらゆる職業の人たちの心からの歓迎を受けました。そこで、彼は多くの人々と知り合い、野口米次郎のような有力な詩人たちとは、互いに親しい友人、称賛者となりました。し



かし、タゴールは人道主義者で反帝国主義者であったので、日本人に対してではなく、日本の帝国主義的政策に対して批判的でした。それは、東京大学での「インドから日本へのメッセージ」と題した講演や、慶応大学での講演「日本の魂」で表明されました。日本政府及び関係者は、かなり不快感を持ちました。その結果、「タゴール熱」や、訪問が期待された1915年に始まった熱狂的な「タゴール・ブーム」はたちまち冷めてしまいました。かつては野口のような称賛者たちも、無関心となるか、公然と彼の批判を始めるものもいました。

これにより、タゴールの日本への積極的な影響が阻まれたことは、明らかです。この状況は、タゴールの二度目の訪問でも同じでした。それは講演を依頼された個人的な招待による私的な訪問でした。これ以降のタゴールの訪問が与えた影響とは、一般的ではなく、より個人的な、私的なものでした。

第二次大戦による国家の破壊で、前政権の軍国主義が断念され、平和を宣言した新政権が誕生したときに、劇的な変化が起きました。人々の考え方にも、ものごとを新しく、積極的に、自由な視点でみる、という新しい環境が生まれました。タゴール生誕100周年記念は、このような背景に行われ、タゴールの人道主義、自由、平和も新しく評

価されるようになりました。開催された多くの行事には、社会階層のあらゆる人々が熱意をもって参加しました。このときの特徴は、数多くのタゴールの作品が日本語に翻訳されたことです。最初は英語から訳されましたが、後にベンガル語からも訳されはじめ、最終的にはベンガル語からのみ邦訳が出されるようになり、一般に広くタゴールが理解され、人々に多大な影響を与えました。

この影響について詳しく知るには、二つの面からみるべきです。まずは、タゴールの作品のスタイルや内容が他の作家に影響を与えたかどうか、次に彼のメッセージが他者に影響を与えたかどうか、をみることです。

最初の点ですが、多くの日本の学者の見解によれば、日本の作家や作風には、タゴールはほとんど影響を与えなかったということです。しかし、ノーベル文学賞を受賞した川端康成は、異なった意見を持ち、中学生時代にタゴールをみた彼は、聖人のような風貌に深い感銘を受け、タゴールの考えを彼の作品に相当取り入れています。

タゴールが一般の日本の読者にどのような影響を与えたかを知るには適切な調査が行われて文書化されない限り難しいことです。しかし、タゴールの作品を1913年に初めて邦訳した増野三

良の例はとてもわかりやすいものです。これは、タゴールの英訳版の「ギータンジャリ」からの翻訳でした。彼が後年、打ち明けたことによれば、当時は不治の病とされていた結核を患ったことを知ったときが、彼が初めてタゴールの作品を知った日でした。そしてタゴールの作品が、おそらく「ギータンジャリ」の詩が、長引いた闘病生活の彼の支えとなり、末期的な病を忘れることができたというのです。タゴールの作品をきっかけに、彼はインド哲学を学ぶようになります。

明確に知ることはできませんが、タゴールの作品を読む喜びに加えて、彼の作品に励まされ、信頼や靈感を得て、日常生活の問題や苦難から自らを支えている多くの人々がこれまでも数多くいたことを私は確信しています。同じことが、より小さい範囲ですが、タゴール・ソングの詩とメロディが日本人に理解され、楽しまれています。タゴールへの関心は、100周年が終わるとまた失われましたが、昨年誕生150周年記念で、再び復活しました。しかし、100周年記念のときのような熱狂はありませんでした。

### 日本がタゴールに与えた影響

ヴィヴェーカーナンダと同様に、タゴールも日本人の特性に非常に感銘を受け、インド人に吸収してほしいと願っ

ていました。言語の制約にもかかわらず、成熟した詩人であるタゴールは、シンプルで深く、想像的で無駄な言葉がない日本の俳句に深く魅せられました。彼自身、有名な俳句をベンガル語に翻訳しました。例えば、松尾芭蕉の有名な俳句「古池や蛙飛び込む水の音」を、タゴールは次のようにベンガル語にしました。

Prono pukar/ Banger laph/ Jaler shavda.

このような短い俳句に創作意欲をかきたてられたタゴールは、ベンガル語でも短い詩を作るようになりました。タゴールは、特に西洋ともインドの絵画とも異なる日本画の美しさに惹かれ、インドの訪問中にタゴールと親しくなった岡倉天心の友人の横山大観や荒井寛方などの何人かの有名な日本の芸術家と交流しました。荒井寛方をカルカッタの自宅に招聘して、日本画をインドの美術家に教え、また彼はインド絵画を学びました。タゴールによって始められたインドと日本の文化交流は、やがてタゴールのヴィシュヴァ・バーラティ大学の「日本バーヴァン」つまり日本語及び日本文学・文化センターの設立に至りました。この大学や他のインドの研究機関で、現在、留学中の人も含めてインドの言語、文学、哲学、芸術、音楽とダンスを勉強した日本人の数は相当なものとなっています。

これまで、歴史的な相互の影響を話してきました。最後にとりあげたいことは、次の問いです。真剣に討論されるべき議題であるこれらの影響を強化する機会や方法はあるのでしょうか。

最初に、スワームージとタゴールの両方が心に描いた、インドでの日本の影響を促進することについて話しましょう。ふたりとも、インド人は、たぐいまれな日本人の特性である勤勉さ、規律、調和、謙虚さ、愛国心を身につけるべきだ、と考えていました。スワームージとタゴールの訪問以来、多くの浮き沈みを経た 100 年あまりの年月にもかかわらず、日本人はいまでも、これらの大部分を維持しており、これらは現在のインド人にとって非常に適切なことばかりです。

第二に、スワームージは、日本の助けを借りて、インドの物質的繁栄を図ること有効だ、と考え、彼はインド人に対して日本から技術を習得することを勧めましたが、これも今のインドに適切なことです。日本からは経済的支援やインフラ整備、基盤整備の支援もあり、最新の例として、着実に成長しているニューデリーの地下鉄がありますが、ここで議論するにはあまりにも有名です。

第三に、絵画や生け花などのすばらしい日本文化を普及するというタゴール

の夢は、ある程度は実現されましたが、その夢の実現には、まだやるべきことが大きく残っています。日本でのインド文化に対する認識や研究は、インドでの日本文化に対する認識と比較すればはるかに進んでいます。このことは、2009 年に日印関係をテーマとした展示会で明らかになりました。日本でのインド料理、インド伝統医学アーユルヴェーダ、ヨーガ、バーラタナティヤムなどインド伝統舞踊に関する本は数多く出版されている一方、茶道、生け花、折り紙など日本文化がインドの言語で紹介された本は、嘆かわしいほど少ないのです。

しかし、例外もあります。空手は、インドで人気があり、空手を教える学校もあります。また、インターネットで知りましたが、インドには、現代俳句の愛好者たちの俳句クラブが約 300 あり、楽しい娯楽となっています。それでもなお、ベンガルのタゴール大学の日本バーヴァン（日本センター）や、コルコタのラビンドラナート・オカクラ・バーヴァン、日本関係機関は、この分野でもっと多くのことをやれるはずです。最近、インドのいくつかの主要都市で、国際交流基金が日本文化を紹介する祭を開催しました。

（第 1 部は以上です。第 2 部「ヴィヴェーカーナンダとタゴールのメッセージの普及と実現」は本ニューズレターの 7 月号に掲載します。）

## 忘れられない物語

### ただの言葉

マーク・トウェインは、次のような絶妙な表現を残している。「温度計があと1インチ長かったら凍死していた、と思えるほど寒かった」凍死させるのは言葉、表現であり、大切なのは、外がどれほど寒いかではなく温度計が表す温度なのである。現実よりも、それをどう言い表すか、そこが重要なのだ。

フィンランドのある農夫について、こんなおもしろい話がある。ロシアとフィンランドの間に国境線が引かれることになり、農夫は自分の土地をどちらの国に入れるか決断を迫られた。長い間考えた末、農夫はフィンランドに入ることにしたのだが、ロシアの役人を怒らせたくなかった。そこで、役人がやって来てなぜフィンランドを選んだのかと尋ねられたとき、農夫はこう答えた。「母なるロシアに住むのは長年の夢でした。でも、私の年ではもうロシアの冬を越すことはできないだろうと思って」ロシアとフィンランドは、呼び名やイメージが違うだけなのだが、人間、特に狂信的な思想を持つ人間にとっては、違いはそれだけではないのだ。

私たちは往々にして現実が目に入ら

ない。あるとき、グルが人々に向かって語りかけていた。人間がどのように言葉に反応するか、人間がいかに言葉を糧にしているか、現実ではなく言葉に頼って生きているかを説明していた。すると、聴衆の中から男が一人立ち上がって異を唱えた。「私は、言葉がそんなに人を左右するとは思えません」グルは言った。「いいから座れ、馬鹿者」この言葉に男はかっとなった。「あんたは自分を覚者だ、グルだ、師だと言っているが、恥を知れ」するとグルはこう言った。「申し訳ありません、つい興奮してしまいました。本当に失礼をいたしました。口が滑っただけなのです。すみません」男がやっと落ち着きを取り戻すと、グルは言った。「ほんの数語でああなたの心に嵐が吹き荒れ、ほんの数語でああなたの心は静まった。違うかね」

言葉とは何たるものだ。言葉を間違えると、人の心は囚われ、抜け出せなくなってしまうのだ。

(Anthony de Mello)

### 今月の思想

「私は天才たる能力をすべて人生に注ぎ、才能だけを作品に注いでいる」

(オスカー・ワイルド)

発行：日本ヴェーダーンタ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: [info@vedanta.jp](mailto:info@vedanta.jp)